

「昔の人の言い伝え 2」

2022年02月02日

イエスは言われた。「あなたがたも、そんなに物分かりが悪いのか。すべて外から人に入って来るものは、人を汚すことができないことが分からないのか。それは人の心に入るのではなく、腹に入り、そして外に出されるのだ。」このようにイエスは、すべての食べ物を清いものとし、さらに言われた。「人から出て来るもの、これが人を汚す。」(マルコ福音書 7章 18節～20節)

主イエスは、ファリサイ派の人々と律法学者たちから、弟子たちが手を洗わないで食事をしているのを見咎められ、昔の人の言い伝えに従っていないと指摘された。主イエスは、預言者イザヤの言葉を引用し、口では神を敬っているが、心は神から遠く、人間の戒めを教え、神の言葉を無にしていると、彼らの偽善を厳しく指摘された。

主イエスは再び、群衆を呼び寄せ、「皆、私の言うことを聞いて悟りなさい。外から人に入って、人を汚すことのできるものは何もなく、人から出て行くものが人を汚すのである」と言われた。「外から人に入って」ということは、もちろん食べ物のことである。これは、ユダヤ人にとっては、天地がひっくり返るような言葉である。レビ記 11 章に、地の生き物、水に住む生き物、鳥、昆虫に関し、清いものと汚れたものに分別し、汚れたものは食べてはならないと規定している。浄、不浄を分けた基準は分からないが、ユダヤ人は、この規定を厳格に守っていた。ペトロは、夢の中で、四つ足の獣や地を這うものや空の鳥が入った布のような入れ物が天から地上に降りて来るのを見た。そして、これらを屠って食べなさいという声を聞いた。彼は、「主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物など食べたことはありません(使徒言行録 10:14b)」と答えている。ペトロの返答がユダヤ人の守り抜いた鉄則であった。それなのに、主イエスは、食べ物は人を汚すことはないと言われた訳である。

群衆が解散した後、弟子たちはこのことについて、早速尋ねた。主イエスは、「あなたがたも、そんなに物分かりが悪いのか。すべて外から人に入って来るものは、人を汚すことができないことが分からないのか。それは人の心に入るのではなく、腹に入り、そして外に出されるのだ」と言われた。口から入る食べ物は人を汚すことなく、腹に入り、不要な物が排便される。全ての食べ物を清い物とされ、「人から出て来るもの、これが人を汚す。中から、つまり人の心から、悪い思いが出て来る。淫行、殺人、姦淫、貪欲、悪意、欺き、放縦、妬み、冒涇、高慢、愚かさ、これらの悪はみな中から出て来て、人を汚すのである」と言われた。食べ物は人を汚すことはなく、心の中から出て来る悪が人を苦しめる。

食べ物に関して、浄、不浄の分類がなされて、美味しい食べ物が食べられず、気の毒で、不便だろうが、影響は少ない。しかし、人間に関して、浄、不浄の分別がなされる時、悲劇が起こる。ファリサイ派の人々は神の律法によって、汚れた者を排除する悲劇を増幅していたのである。ペトロが、「主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物など食べたことはありません」と言った後、「神が清めた物を、清くないなどと言ってはならない(使徒言行録 10:15b)」という声が聞こえたと記している。ペトロは、この声に従い、汚れた者とされていた異邦人の宣教に向かっている。主イエスは、浄、不浄の垣根を乗り越えて、全ての人を清いとされた。人は他を差別して自分を高みに置きたがるが、神は全ての人を愛し、人を選び分けないと宣言したのが、主イエスの示した福音であった。